

1コリント14：1-25

「預言と異言」

11/15/20

*この真理を3つのたとえをもって話している

A. 預言が異言に勝る理由 1-5節

1. 異言の問題点 2節

この問題は...

「自分の霊で奥義を話すからです」

「異言を話す者は、人に話すのではなく、神に話すのです。というのは、だれも聞いていないのに、自分の霊で奥義を話すからです。」(第二版)

「異言で語る人は、人に向かって語るのではなく、神に向かって語ります。だれも理解できませんが、御霊によって奥義を語るのです。」(2017)

2. 預言の優れたところ 3-5節 ローマ14：19、使徒20：32

●「徳を高め」

●「勧め」ローマ15：4

●「慰め」2コリント1：4

B. 異言が預言に劣る理由 6-19節

1. 意味不明 6-12節

1サムエル3：9、10 (主の御言葉を聞きたいという願い)

1テサロニケ2：13 (神のことばが語られている！)

①楽器 7節

②戦闘用ラッパ 8節

③会話 9節

2. 解き明かしの必要性 13-19節

①異言の解き明かしの重要性 13-15節

祈り：「もし私が異言で祈るなら、私の霊は祈るが、私の知性は実を結ばないのです。14」

C. 異言と預言の働き 20-25節

①異言と預言の目的 21-22節

イザヤ28：11

まことに主は、もつれた舌で、外国のことばで、この民に語られる。

②異言と預言の効果 23-25節

●「異言」23節

●「預言」24、25節